

高知市に最年少9歳防災士

地域のみんなを守りたい。高知市大津甲の付属小4年、片山航君が今春、全国最年少タイの9歳で防災士になった。避難の「避」をはじめ、テキストの読めない漢字は両親に仮名を振ってもらいながらこつこつ学んできた。両親は既に防災士で、姉と祖母も一緒に防災士

になり、一家3世代の地域リーダーが誕生した。(22面)両親震災体験(備え口常)

日本防災士機構(東京)によると、防災士になるには救急救命講習や認証機関で研修を受け、筆記試験(3択30問)で80%以上を正答することが必要。9月末時点で全国に

21万4459人、県内に4888人いるが、9歳は片山君を含め全国に4人だけだ。

昨秋、姉で大津小6年の潤さん(11)が防災士への挑戦を始めると、航君も「僕もやるっ」。県の養成講座(2日間で計12時間)に申し込むと、自宅に届いたのは360分に及ぶ

片山君「もつと知識増やす」



全国最年少に並ぶ9歳で防災士になった高知市の片山航君

(高知新聞社・森本敦士撮影)

「防災士教本」だった。火砕流、内水氾濫、雲仙普賢岳…。分厚い教本にはなじみのない用語と地名がずらり。

父の晋也さん(49)と母の佳織さん(43)は6年前から防災士。航君は用語の意味を教わりつつ蛍光ペンを引き、きょうだいで「火砕サージって何?」と問題を出し合って理解を深めた。

「特に、公的機関や企業の災害対策(のカリキュラム)が難しかった。災害対策基本法の概要や罹災証明の発行など、何度も読み返して習得。昨年12月に講座を受け終え、最初の筆記試験は不合格だったが、2カ月後に受け直して合格。今年4月に認定された。

高知に誕生した9歳の防災リーダー。友達にも防災を伝え、一緒に勉強したい。もつと知識を増やしたい」と意気込んで

(村上和陽)